

## 平成22年度若手研究者奨励金（理工系・農学系）アンケート結果について

平成22年度の若手研究者奨励金交付対象校に、本奨励金等についてアンケートをとらせていただきました。ご協力ありがとうございました。

皆様からのご意見につきましては、今後、若手研究者への支援の充実を図るうえでの参考とさせていただきます。

○平成22年度若手研究者奨励金（理工系・農学系）アンケート集計結果（回収率 21/21件、100%）

### 1. 応募資格について

(1) 対象年齢（37歳以下）について

ア. 適当である	21
イ. 対象年齢を上げるべきである	0
ウ. 対象年齢を下げるべきである	0

(2) 対象者（助教またはポスト・ドクター）について

ア. 適当である	18
イ. 対象を拡大するべきである	2
年齢以下であれば職名を問わず（1件）	
ウ. 対象を縮小するべきである	1
助教のみ（1件）	

### 2. 交付金額（一律50万円）について

ア. 適当である	17
イ. 交付金額を引き上げるべきである	4
100万円（3件） 75～100万円（1件）	
ウ. 交付金額を引き下げるべきである	0

### 3. その他、本奨励金に対する主な意見・要望と、今後の事業団の対応

Q.

1つの大学で1つの研究のみ応募可能という枠を緩和（拡大）してほしい。

A.

日本全国にある私立大学、私立短期大学、私立高等専門学校で行われている研究について、学校法人が支援する多くの研究者に機会を与える観点から、当事業団の学術研究振興資金及び若手研究者奨励金は「1学校1件の応募」という仕組みにしています。

Q.

地方の若手は研究費獲得に苦労しているので、若手の枠（人数）を増やしてほしい。助成額の大小にかかわらず、助成金の獲得実績自体が若手のステップアップに繋がる。

A.

平成24年度の若手研究者奨励金は「生物学系・医学系」を交付対象としますが、従来よりも交付枠を500万円拡大し、1件あたり50万円で、平成23年度比10件増の30件を採択したいと考えています。

Q.

交付金額を増加してもらえれば、装置等のまとまった研究材料が購入できるので、より活発な研究が可能になる。

A.

当該資金は、若手研究者が行う研究を奨励するため平成20年度に創設され、一律の金額を交付しています。平成20年度・21年度交付分は「人文・社会科学系」を対象に1件30万円、平成22年度・23年度交付分は「理工系・農学系」を対象に1件50万円の交付をしています。平成24年度・25年度交付分は「生物学系・医学系」を対象に1件50万円を交付する予定です。

Q.

審査結果の詳細を開示してほしい。

A.

研究者の今後の研究計画立案にお役立ていただくため、平成24年度交付分からは、採択・不採択にかかわらず、審査結果に係る選考委員のコメントを送付する予定です。